

2017年のホットなストレージ技術審査を採点する

我々は、ホットな技術とデータストレージ業界のトレンドを予測するために、15年間ずっと同じ水晶玉を使っていい仕事をしてきた。とはいえ、我々はこの玉がいつもクリーンであるように最善を尽くしているにもかかわらず、時としてやや曇りが生じることがある。そうすると、どうしても状況を正しくつかめなくなってしまう。それゆえ我々は、公共性を帯びた情報提供の一つとして、前年に行った選択がどうだったかを振り返ることにしているのだ。

成績	ストレージ技術	結果はいかに？
A+	NVMe	あなたがプライマリストレージを買おうとしているなら、ほぼ間違いなくフラッシュを検討しているはずだ。そして、あなたがフラッシュを検討しているなら、ベンダーは自社の新しいNVMeディスクを自慢しているか、またはできる限り早くNVMe機能を追加する予定だと言っているだろう。
A-	ソフトウェア定義のストレージ	SDSという用語は、何年間か誤用されてきたが、ようやく特定のタイプのストレージを説明するように意味が狭まってきた。この用語がまた再び拡張されて、あらゆるストレージソフトウェアを意味するようにならないことを願う。
B	大容量半導体ストレージ	15TBのSSDはフラッシュアレイの中で普通に使われている。今はさらなる容量増のため次のステップに入る時期だ。
B	コンテナ	コンテナを使う開発者と同じように、コンテナは永続的になった。つまり、コンテナにはストレージが必要という事だ。
B-	クラウド・ツークラウド・バックアップ	あなたにとってこの機能はまだ必要ないかも知れないが、あなたのバックアップ・ストレージベンダーがこれをサポートしているのを知れば何となく嬉しいのではないだろうか。現在では、ほとんどのベンダーがこの機能をサポートしている。
D	32Gbpsファイバーチャネル	BroadcomによるBrocade買収が遅れたことにより、この技術は停滞してしまった。Brocadeは、32Gbpsファイバーチャネルの主要な推進者だが、同社のマーケティングプッシュ（および買い替えセールス）は、Broadcomが法的障害をクリアするのを待っている間に、後回しにされてしまった。